

平成 2 6 年

美里町産業活性化戦略会議 会議録

第 1 回 7 月 2 8 日

美里町産業振興課

美里町産業活性化戦略会議（第1回）

会 議 年 月 日	平成26年7月28日（月）
会 議 の 場 所	役場本庁舎 3階大会議室
開 会 時 間	午後6時00分
閉 会 時 間	午後8時30分
出 席 者	委員 栗野敏夫 涌井良宣 尾崎 勝 渡部憲明 渡邊新美 武田正晴 直枝朝子 佐々木幸子 菅原 都 三神 新 新田耕一 オブザーバー 山内一也 アドバイザー 高力美由紀 菊地 郁
欠 席 者	なし
職 務 上 の 出 席 者	町 長 相澤清一 副町長 佐々木 守 産業振興課長 大友義孝 産業振興課商工観光室係長 阿部伸二 産業振興課主査 川名秀明 産業振興課主査 木村 敏
会 議 案 件	1 開会 2 委嘱状交付 3 町長あいさつ 4 座長選出 5 会議趣旨説明等 会議趣旨説明 スケジュール説明 6 意見交換 7 その他 8 閉会

司会：川名主査	1 開会宣言 午後 6 時
相澤町長	2 委嘱状交付 各委員へ委嘱状を交付。
大友課長	各委員それぞれ自己紹介。 事務局の紹介。
大友課長	戦略会議の概要説明。
司会：川名主査	3 町長あいさつ。
相澤町長	町の活性化のために皆さまの意見をいただきながら、しっかりとビジョンを作っていきたいと思うのでよろしくお願いしたい。
司会：川名主査	4 座長選出。暫時の間町長に仮座長をお願いする。
相澤町長	座長選出まで仮座長を行う。 選出の案について諮ったが、特にないので事務局案の提示を求めた。
大友課長	戦略会議要綱をもとに座長選出の説明をした。
大友課長	渡邊商工会会長を事務局案とした。
相澤町長	承認について諮り、異議ないので座長を渡邊商工会会長とした。
座長：渡邊会長	あいさつを行い、座長に就任。
座長：渡邊会長	5 会議趣旨説明等 会議趣旨説明について町長より説明を求める。
相澤町長	産業活性化戦略会議について、町長の考えを述べる。 立候補を表明して以来、町の活性化について常に考えてきた。 この町を活性化させるためのビジョンについて述べる。 以下、町長の説明要旨 ・活力ある元気な町へ。 ・農業を柱とした戦略。 ・町を全国に発信できるような総合交流の場所。 ・活性化施設を一体化した道の駅の必要性（災害拠点、原発）。 ・地元高校、地元企業を活かす取組み。 ・元気がでる直売所へ。 ・女性の視点。 ・文化、芸術の発信の場。 ・若い方の活動の場の提供。 ・素晴らしい戦略会議と言ってもらえるようにしたい。 ・上も下もない楽しい会議にしたい。 この会議にて各界各層の方々の貴重なご意見をいただきながら、しっかりと内容を集約し活性化のビジョンに結び付けていきたい。
座長：渡邊会長	スケジュール説明について事務局に説明を求める。
大友課長	スケジュールの説明を行い、資料により産業活性化についてたたき台の説明を行った。

	・町の概要 ・主要なデータ ・産業活性化の理念 ・産業活性化へのイメージ ・産業活性化への道（３つの柱について）
座長：渡邊会長	スケジュール及び産業活性化のたたき台の説明を受け、委員各位に意見を求めた。
栗野委員	既存にある道の駅には、大手商品が入りすぎている。 地場産品が並び、芸能イベントの開催を可能とすることが必須だろう。 地元民や地元企業を活用し、ただの箱物にならないように常に活かした形で使用できることが望ましい。
涌井委員	なし部会では梨の加工品として「わはわ」と連携し、なしのピューレを作っている。学校給食でも活用していきたい。また、県内の梨の販売状況を見ると蔵王町は市場出荷、角田市は生協中心、利府は道路沿線での販売、美里は道路沿線での販売となっている。今後こういった展開がいいか若い方の意見を入れながら検討している。 認定協議会の立場から言えば、現在中間管理事業が動いている中、昨年までの「人・農地プラン」での担い手の位置付けと今後の担い手の位置付けがどう整理されていくのかが課題であると感じる。 担い手育成事業はただの補助金ではないのでしっかりと活動することが必要である。
尾崎委員	農協の販売部門（野菜）は共販、部会販売から直売に移行してきた。平成１５年に富谷に直売所を開設し５．５億円、元気くん市場で２．２億円ほどの売り上げがあるが、直売所は調整機能がないことから運営などに弊害が出てきている。 ２号店を開設したいが、量がない。（調整機能やマーケティングが働かない） 加工契約で量を確保する必要がある（ポテトなど）。みどりの管内でも葉もの（ほうれんそう、水菜）を推奨してきた経緯があるが、落ち込んできている。 活性化施設は誰が作り、誰が運営していくか老若男女すべてで考えていくことが必要。 野菜の栽培技術を若い方にどうつなげていき、女性の力を活用した加工品製造にどう結び付けていくかが課題である。
渡部委員	農業のキーワードは米であり、減反政策などにどのように対応していくかが課題である。野菜については、業務加工用の野菜が６割を超えていること、さらには物によっては輸入品が７割を超えているところがポイントになってくる。都会ではおいしいスイーツや果物が多

	くなった半面、メロン、すいかなどは需要が落ち込んできている。その原因にはものに当たり外れがあることと皮がゴミになる環境問題がある。 道の駅については岩手には30の駅がある。岩手のすごいところは石ころでも売るところ。岩手では無駄なく皮も商品化して販売している。 ここにはそういった拠点がないことも事実であるので、拠点を中心に連携を図っていければ。それらのキーワード全てを含み考えていきたい。
武田委員	農業とは違う世界の話になるがとにかく市場調査を行い、どれくらい販売するか検討している。 コスト面では工場を外国へ移し、製品を輸入している現状である。 既存製品プラス先を見据えた商品開発を常に考えている。開発商品が半分以上ないと未来は明るくない。 現在自動車産業との取引が66%を占めるが、あまりにも偏りすぎるのも不安材料である。 環境にやさしい製品の開発も検討している。例えば本来捨てていたウレタンなどの端材を加工し、マクラの中に入れ販売している。 目先を変えた販売が必要である。 当社の基本は大きな木より、森を作ろうという考えである。それは人づくりの考えである。 道の駅（活性化施設）も最終的には利益を上げなければならないもので、夢プラス利益がないと長く続かない。
直枝委員	家畜市場の近くの菜の花を利用したバイオ燃料はどうなったか。 手段や方法が町は下手だと感じる。山の神のあじさい祭りもどうか。 人材発掘が必要である。
佐々木委員	町全体が食糧基地となればという夢がある。そのためには技術の確立が必要。米などの技術は確立しているが、園芸は売れるものを作る技術が必要。 人が集まるのは、お得感があり満足感があるもの。来てくれた人にどうやってお得感や満足感を与えられるか考えていきたい。 世界農業遺産登録を活用する。 元気くん富谷の直売所は交通整理も必要なほどすごいと聞いている。 美里町とはマーケットの規模が違うので比較は難しいが、これからはネット販売が良いと思っている。
菅原委員	地域の活性化のため、まず人づくりから行って頂きたい。 今の地域の農業は70歳台が中心となっている。これから5年、10年経ったとき、地域の若い人たちが農業を行えるように法人化し、部落の田は部落の法人が行い、6次産業化も併せて行うというのが私の

	夢である。若い人はお金が集まらなないと戻ってこない。鹿島台でも涌谷でも儲かっている農業をしているところには後継者が育っている。経営を法人化し足場を固めれば、道の駅で年中通し売れるものを供給できるのでは。また、需供調整をうまくできるような底辺（基礎）を作ってもらえるように願いたい。
三神委員	就農人口が高齢化している。 若い人、今行っている人にやる気を起こさせる。リレー式の農業であり、ダメであれば離農となる。 6次産業化は地域で行っていくべきでそうすれば持続できる。それには法人化やJAが農家個々の能力を見出し活用する必要がある。 一時的に儲かるのではなく、地域全体で継続的に儲かるような施設になればいいのかなと思う。
新田委員	にぎわいのある町づくりが必要である。私も田フェスを中心に係わっているが、25年前の賑やかさがなくなっている。 人を呼ぶためには、農業と消費者、実際の体験ができるようにするのが良い。（例とんたろう：ソーセージ作り体験） 花野果でも大きいイベントだけでなく、小さいイベント（サービス）も行っている。 人材育成が必要である。若い優秀な人材も地域に楽しい部分がないと残らない。若い人が楽しめる感じの部分も必要であり、施設は体験できるようなものがよいと思う。
山内アドバイザー	人々は都会で無理して暮らしているのではないかと思うことがある。 若い人が都会に出ていくというが、好きで都会に行った訳ではないと思う。 この町は田んぼがきれい。夜の田んぼもいい。ただ田んぼの中を歩くだけで十分と思う。東北本線の走っている列車を夜見ると銀河鉄道のように思える。あまり明るくない場所で鉄道（列車）が見られる場所に公園をつくりライトアップしてみてもどうか。あまりお金をかけないで。 施設には目玉が必要である。この町は脱原発を表明しており、再生可能エネルギーに力を入れている。ソーラーパネルを利用したモニュメントを作り、シンボルとしてはどうか。砦や迷路を作るもの良いのではないか。太陽光発電をアミューズメントに使い、その資金は民間に出してもらうのもおもしろいのでは。
高力アドバイザー	産業の活性化とは何なのか。活性化拠点として何ができるか。アドバイザーの立場として考えていた。夢を持つことは重要でポイントとしては、皆さんの子や孫がどんな町にしたいかを考えること。後継者不足の中で若者が集まるような拠点とはどういうものかを考える。若者の夢を集約した形での施設の可能性。

	仕事を通して「食」のすばらしさを感じている。 食をとおしたサービスなどを誰に対し、誰のために行うのかを明確にすることが大事。加工品を売るためにはプロ（商社など）を利用する。 こせがれネットワークの間では、きつい、きたない、稼げない農業からかっこよく、感動があって、稼げる農業への変換が言われている。 この町のいい資源、要素を繋ぎ合わせてストーリーを作っていくような展開が必要である。
菊地アドバイザー	皆さまのような現場でやっている方の生の声が聞けてよい。 お徳感という話があったが、そのとおりと思う。そういったことを現実とすり合わせて行っていく作業が必要。 最近の若い人（大学生）を見ていて思うのは、根性がないこと。 自ら動くということはない。自主性がある生徒もいるがごく一部。 人材育成や確保というものも物売るのと同じで、わくわくするような何か人を引き付けるものでないと難しい。セットで考える必要がある。
座長：渡邊会長	各委員の率直な意見をお聞かせ頂いた。 今回は産業活性化のたたき台として説明を受けたが、次回からスケジュールのとおり、意見交換を行っていく。
司会：川名主査	意見交換ありがとうございました。 7 その他に移ります。事務局は特にありません。
司会：川名主査	特になければ、閉会のあいさつを佐々木副町長が行います。
佐々木副町長	閉会のあいさつ
司会：川名主査	8 閉会宣言 午後8時30分

会議の経過を記載して、相違ないことを証するためここに署名する。

平成26年8月 日

美里町産業活性化戦略会議 座 長 _____